

裏金政治を終わらせるために政権交代を 総選挙勝利へ全力を上げよう

昨日衆議院が解散されました。総選挙は10月15日に公示され27日が投開票日となります。20日足らずの超短期決戦となります。自民党による裏金政治を終わらせるためには政権交代が必要です。全力をあげてたたかきましょう。

石破首相は総裁選において「予算委員会を開いて野党の方々と論戦を交わした上で国民に判断をいただく」と語っていましたが、結局開きませんでした。裏金議員の立候補をめぐる「徹底的に議論」から一点「全員公認」へ、そして「一部非公認」へと対応が二転三転しました。



所信表明演説では「国民を信じない政治が、国民から信じられるわけがない」と述べましたが、結果として自らの政治姿勢を自ら批判するものとなりました。「勇気と真心を持って真実をかたる」態度とは真逆の政治姿勢であることも明らかになりました。今回の総選挙は野党や国民には目を向けず党利党略で裏金政治を温存させ、自民党政治の延命を図ろうとするものに他なりません。

総選挙は裏金問題や旧統一教会によりゆがめられ汚されてきた政治を一掃する重要な選挙となります。また新自由主義や自己責任ではなく公共を重視した支え合う社会—憲法理念が活かされる社会—を実現する政治への転換を図る重要な選挙でもあります。立憲民主党は今回の総選挙において「政権交代こそ、最大の政治改革。」をキャッチフレーズとして掲げ、「政治の信頼回復」「分厚い中間層の復活」

など7つの政策を訴えてたたかいます。「政治改革」においては企業・団体献金の禁止などを掲げ、経済面では最低賃金1500円以上を目指すとしています。

この間の補欠選挙において「政治とカネ」の問題で「お灸」をすえた保守票や一次産業や地方の切り捨てに「NO」と意思表示した層を今度の総選挙においても引き続き獲得することが求められます。あわせて「失速」が顕著な維新の「身を切る改革」に期待していた層を私たちの側に取り戻さなければなりません。

私たちは、選挙区で立憲民主党の候補者（立憲野党の候補者）の勝利、そして比例票の拡大に向け全力をあげます。そして与党を過半数割れに追い込み、政権交代を目指します。またたたかいを通して社会民主主義フォーラムの存在感や影響力を高め、立憲民主党の綱領や基本政策に基づく政策や運動の強化を目指します。

そして党の地域組織の整備・強化とともに労組や諸団体、大衆運動（課題）と党をつなぐ役割をしっかりと担っていきます。こうした総選挙の意義と課題を自覚し各地で奮闘し勝利を目指しましょう。

**政権交代で
あなたの暮らしを豊かに
立憲民主党の7つの約束**

- 政治の信頼回復**
 - 政治資金を徹底的に透明化し、裏金・脱税を許しません
 - 金権政治の温床となる企業・団体献金を禁止
 - 国会議員の政治資金の世襲を制限
 - 税金の使い方を徹底的に透明化、効率化
- 分厚い中間層の復活、家計・賃上げ支援**
 - 「人への投資」と最低賃金1500円以上で賃金を底上げ
 - 中小企業が賃上げしやすい環境を整備
 - 自然エネルギー、デジタル産業に重点投資
- 安定した外交・安全保障戦略**
 - 日米同盟を基軸とし、アジア太平洋地域との連携強化
 - 関係変動対策や人権を重視した外交を展開
- 超高齢社会に対応した医療・介護・福祉**
 - 国民の健康保険証を携帯
 - 保育・介護・福祉で働く人の賃金を上げる
- 未来を育む子育て・教育**
 - 給食費、高校・専門学校・大学を無償化
 - 奨学金の返済を支援
- 地方に豊かさを届ける政策**
 - 新たな直接支払制度で食料自給率を向上
 - 地方回帰の加速と、災害に強いまちづくり
- 多様性を認め合える誇りある社会**
 - 選択的夫婦別姓制度を実現
 - ジェンダー平等を憲法に推進

立憲民主党

フォーラム候補者の当選へ 全国から支援を

社会民主主義フォーラムは9月26日にオンライン会議で総選挙勝利に向けた全国的意思統一を行いました。出席したフォーラム所属の3名の候補者・選対関係者の方々の決意（要旨）を掲載します（文責は編集者にあります）。

一票一票の積み上げで 勝利を目指す

山としひろ（富山1区）



去年の6月に公認内定して以来、一年余り活動を続けてきました。裏金の問題と経済政策。特に「人から始まる経済再生」を重点的に訴えています。

1区の現職は裏金、統一教会とかかわりのあった議員です。だから「チャンスだ」という思いもあります。

しかし候補者には維新で前回比例復活した議員がいます。今回金銭問題を起こして除名され無所属で立候補します。そこに維新がぶつけ、共産も予定しており多党化、乱立になっています。こちらは一票一票積み上げていくしかないと思っています。これまで2万件近く歩きました。街頭活動にも力を入れ、いろいろなところに顔を出して「山」という候補者がいることを多くの方に認知してもらう努力をしました。

政策的なことでは消費税や防衛費や原発などが問われると思います。特に野田新代表となり、消費税がどうなるかだと思います。その辺、私自身も理論武装して、ちぐはぐな対応を取るとマイナスイメージとなりますので、しっかりしなければならないと考えています。社民フォーラムの活性化にはやはり国会議員を増やすことが重要です。全力で頑張っていきます。

「国民のための政治」を モットーにたたかう

こしかわ康晴（富山2区）

私は3年前も立候補し残念ながら落選という結果に終わりました。

四点を掲げて訴えています。一点目は経済の活性化、家計が潤い購買力が回復できる仕組みを作ることです。私見としては食料品と日用品の消費税をまずゼロにして家計の負担を減らすこと。



さらに連合とも一緒になって賃金を上げていく。そのような仕組み作りを一番目に訴えています。

二点目は社会福祉の充実です。国民負担や税金を上げないで、少子化対策など進めていきたい。出産支援一時金の拡充や給食費の無償化などです。そして介護・保育に従事する皆さんの処遇改善、安心して老後を暮らせるようなバックアップ体制などです。

三点目は裏金問題です。金によってゆがめられる政治を質するための信頼できる政治の確立です。「信なくば立たず」です。改正政治資金規正法はいわゆる「ザル」法であり、しっかりとした歯止めを法律で作り、それを国民がチェックできる仕組みが必要です。

最後に民意の把握が政治の課題であり、投票率をアップさせるための仕組みです。「国民のための政治」をモットーにたたかう決意です。

最後の最後までたたかい抜き 勝利を勝ちとる

吉川はじめ（大分2区・守永信幸選対副委員長）



大分2区では、保守系の方が二人立候補を予定し、吉川と三つ巴のたたかいとなっています。前回是一对一のたたかいで、654票の僅差で敗れました。吉川の方が分がいいとされていましたが、最終盤に相手候補は昔の地元に入って、多くの方々に泣きつきました。

最後の最後までたたかい抜く、そういう思いを共有しなければと痛感させられました。相手陣営は、野党一人、保守系は二人で吉川さんの方が分がいいんじゃないかと言ってきます。「今回は新人へ」とならないよう、しっかり話していく必要があります。

自民党は裏金問題や旧統一教会の問題など、様々な闇の部分の次の選挙でかき消そうとしている、そうした問題点を訴えていくことが課題です。また経済が活性化しなかったこの30年を振り返り、非正規雇用を正規雇用へと、さらに賃上げの実現について、そして子育て環境の充実など訴えなければと思います。また若い方々に地域に残っていただく魅力を作ることも問われており、そのための政策もきちんと訴えていくことも求められています。

様々な課題がありますが、何としても吉川勝利に向けて力を結集していきたいと思っています。